**愛知県防具付空手道選手権大会競技規定**

全日本防具付空手道の競技規定・審判規定に順ずるが、一部愛知県防具付空手道連盟（以下、ＡＢＫＦ）の申し合わせによるものとする。（ゴシック文字はＡＢＫＦ申し合わせ箇所）

**≪ 組手競技 ≫**

**選手服装**　　・男子はインナー着用不可、女子は白無地のＴシャツ（ただし個別事情による着用の場合、大会審判長の承認を得る）

・上着の袖の長さは手首まで、袖まくり禁止

・ズボンの長さは踝が出るもの、裾まくり禁止

・所属団体表示マーク等は左胸もしくは左上腕部に限る（背中等他の部分に団体名が記載されているものは、全国大会予選となる当大会ではこの限りではない。ただし全国大会出場においては規定遵守すること）

　　　　　　・規定違反の服装は、これを補正する時間として１分間を認める

**審判員服装**　・長袖の白Yシャツ（上着は黒又は濃紺のブレザー）

・ネクタイピン等金属類無し、指定のネクタイ

・折り返し無しの黒又は濃紺のズボン

・指定の白シューズ

・笛は白　　　　　　　　　　　　　　　**※ただし、審判服装については当面任意とする。**

**審判員**　　　５審（３審）制とする。（主審１名　副審４名（２名）　監査１名の６人（４人）制）

**試合形式**　　競技は１本勝負。トーナメント制とし、赤　白　に分かれて勝敗を決する。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 面 | 胴 | 拳サポーター | 足サポーター | ファールカップ |
| 幼児 | **スーパーセーフ同等面** | **主催者用意** | 義務・布製 | 任意(布製) | 不要 |
| 小学１・2年生 | ストロングマン面 or  **スーパーセーフ同等面** | **主催者用意** | ストロングマン専用or  **パンチンググローブ等** | 任意(布製) | 不要 |
| 小学３・４年生 | ストロングマン面 | **主催者用意** | ストロングマン専用or  **パンチンググローブ等** | 任意(布製) | **推奨** |
| 小学5年生以上 | ストロングマン面 | **主催者用意** | ストロングマン専用or  **パンチンググローブ等** | 任意(布製) | 義務  （未使用失格） |

**防具**

※胴については、錬武会指定胴の個人持ち使用可。　　　※防具については全て男女共通

※パンチンググローブは、指の出るものは使用不可。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 個人戦（フルタイム制） | | 団体戦（フルタイム制） | |
| 小学生以下 | 1分 | 先鋒 | 1分 |
| 中学生 | 1分30秒 | 中堅 | 1分 |
| 高校生・一般 | 2分 | 大将 | 1分 |

**試合時間**

※団体戦は、堅戦までの結果で団体勝敗が確定した場合、大将戦は行わない。

**勝敗の決定と延長戦**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 準決勝までの本戦 | （０－０）⇒　判定※1 | ペナルティーは加味されない |
| （１－０）⇒　技ありの方が勝ち※1 |  |
| （１－１）⇒　判定※1 | ペナルティーは加味されない |
| 全ての本戦 | （２－０）⇒　１本先取したほうが勝ち | 技あり２回で１本勝ち |
| 決勝戦の本戦  ストロングマン杯 | （０－０）、（１－１）⇒　延長戦１分間  延長戦　⇒　技あり先取りまたは判定 | 本戦のペナルティーは延長戦に持ち越すが判定には加味しない |
| 団体戦（個人勝敗） | 同ポイント ⇒　引き分け | 引き分けコールし、判定はしない。 |
| 団体戦の代表戦※2 | 同ポイント ⇒　判定※1 | ペナルティーは加味されない |

※１ 引き分けの場合、引き分けコールは行わずに勝敗判定をとる。また、ポイント差がある場合も判定は行わずに勝者コールする。

※２ 団体戦で引き分けの場合、先鋒にて代表戦を行って勝敗を決める。

**勝敗または１本の判定**

軽い技は無効／攻撃部位：①頭部（後頭部を除く）　②顔面部　③胸部　④腹部　⑤上半身両側部

1. 正確、有効で威力ある突き、打ち(肘打ちは除く)、蹴り(膝蹴りは除く)が定められた部位に決まった場合を１本とする。また、「１本」に満たない有効技を「技あり」とし、技ありを２回合わせて「１本」とする。
2. 正しい姿勢、気迫、残心、適正な間合い、正確な攻撃部位の把握等の諸条件を充たしていること。
3. 次の場合は前項を充たさなくても「１本」とできる。
   1. 相手の体勢を崩した直後の技
   2. 相手の出合いを狙った技
   3. 連続技
   4. 上段蹴り等高度な技術を要する技
4. 次の場合は有効とする。
   1. 競技時間終了と同時に決まった技
   2. 攻撃した競技者が競技場内で決め、攻撃された競技者が競技場外に出た場合、技は有効、他方は場外とする。
5. 判定の優先順位基準
   1. 手数
   2. 技ありには不十分であるがそれに近い技の数（高度な技）
   3. 気迫（気合）、闘争心、防御能力の優劣

**懲罰**　　　全日本空手道連盟錬武会の試合規定に順ずる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 1回目 | 2回目 | 3回目 | 4回目 |
| 忠告 | 警告 | 反則注意 | 反則 |
| 相手に加点無し | | 相手に技あり１P | 相手に技あり２P |
| ・軽微な反則 | ・既に忠告有り、その後の軽微な反則 | ・既に警告有り、その後の軽微な反則  ・重度の反則 | ・既に反則注意有り、その後の反則 |

反則のカテゴリーは「場外」及び「場外以外の反則（禁止事項及び無防備）」の2種とし、それぞれ各々で反則ポイントを加算する。

|  |  |
| --- | --- |
| 禁止事項 | ・防具を着用していない背面部・後頭部・股間部への攻撃、腕部・脚部（下段蹴り）への攻撃  ・関節部・足の甲への攻撃（但し、有効技に繋がる足払いは除く）  ・頭部での攻撃、肘打ち・膝蹴り・投げ技掴みかかり・組み打ち・暴力的体当たりなど危険な行為があった場合  ・倒れた相手選手へ直接打撃（突き、蹴り、打ち）  ・執拗な上段攻撃には警告を発する  ・得点の多い選手が逃げ回る行為が認められた場合 |
| 無防備 | ・技をかけた後、後ろ向きとなり防御を解く行為  ・「やめ」の宣告がないにも関わらず、自己判断で競技を中断して警戒を解く行為 |
| 場外 | ・故意に場外へ出て、相手に得点の機会を与えない  ・片足又は両足が場外に出た場合（防戦一方の後退や退避）  ・攻防中に場外に出た場合は、開始線に戻って継続する（反則とはならない） |

その他細則

1. 組手競技における票決権　主審1.0点、副審1.0点
2. 副審旗2本の際、主審が認めない場合は止めをかけて協議（主審、副審、監査）を行う（3審制の場合）
3. 主審が有効打を認め、副審2人が「取りません」の意思表示をしない場合、監査と協議して判断する（３審制の場合）
4. 返し技は取らない
5. 強打を技ありとするが、小学生以下の力の弱いクラスは、安全性を重視して正確さで有効打を判定する
6. 蹴った後にバランスを崩した場合、その技（蹴り）は技ありとしない
7. 突きについて、残心が無い場合は技ありとしない
8. 外部の応援が目に余る場合、選手にペナルティーを科す

【上段突き】

1. 刻み突き、順突きの場合、逆突きと同じような腰の入れ方を求めすぎない（技の完成度・相手の様子（ダメージ）等を見て有効技を判断する）
2. 腰が高めでも腰が入っていれば有効技とする（棒立ちはダメ）
3. 残心が無いものや姿勢が粗雑なものは、タイミングが良くても取らない（例：棒立ちのままの技、打ち流しの技、下がりながら打った技や崩れながら打った技）（打ってから下がるのはＯＫ）
4. 技ありにならない上段突きの執拗な連打があった場合、試合を止めて仕切りなおす。

相手にダメージがあった場合は、技の質により、技ありとするか、相手の無防備を取る。

【上段回し蹴り】

1. 面の部分は側頭部にクリーンヒットでなくても有効技とする（首付近・顎付近も可）。
2. 面の表面をかするような技は取らない。
3. 弱い蹴り、軽い蹴りは取らない。
4. 強い蹴り（頭が振る）、完成度の高い蹴りは「一本」、「一本」に満たない場合は「技あり」とする。
5. 相手が頭を下げた時に顔面等に当たった技は有効技とする。

【その他、上段技】

1. 上段前蹴り　⇒　有効
2. アッパー（上段下突き）⇒　禁止
3. バックブロー（振り鉄槌）⇒　有効。但し正確さを重視し、単なる振り回しでの打撃は無効。
4. フック（上段横突き、上段回し打ち）⇒　狙ったヒットは有効。質によっては反則となる場合がある。残心がないものは無効。
5. 猫パンチ（通称）は無効。

【中段回し蹴り】

手のガードはあるが、同時に胴の部分にも当たっている場合は有効技（強打に限る）とする。

【下段回し蹴り】

低年齢で足が上がらないなど故意でない場合は、低年齢であることを考慮し試合を止めて注意する。

但し、改善がない場合は軽微な反則行為として扱う。

【技の強さ等】

「不十分」、「技あり」、「一本」の判断は下記とする。

1. そのクラスの選手年齢を考慮する。
2. 危険を避けるための理由から判断（例えば、防御はしているが、強打のために十分防御できていない場合、打撃を有効技として取らずに試合を続けると、強打による危険性が高まる等）。
3. 相手のダメージ、様子（不意打ち、無防備、頭が振れる、効いていると判断される場合）。

但し、気迫や力が弱いが、良いタイミングで正確に当てている場合、技ありとする場合あり。

1. 技の完成度は低いが、相手が無防備で明らかにダメージがある場合、技ありの場合あり。
2. 「面がない試合だとしたら当たってない技」は取らない。
3. 気合（声）はなくても有効打はポイントとなる。

【崩し・転倒等】

1. スリップ等、相手の技によらない転倒の場合、主審がすぐに止める。
2. スリップ等で転倒した相手への攻撃は無効（攻撃の前に主審が止める）。
3. 技を出す時に自分で転倒した場合、その時に出された技は無効。
4. 相手を足払いで崩してから2秒以内の寸止めの技は「一本」。但し、背足での足払いは不可。
5. 足払いの後、次の技に繋ぐこと。足払いのみの場合、軽微な反則行為とする。

**団体戦**

引き分けあり（延長戦はなし）。

先鋒・中堅で勝負が決定した場合（２対０）大将戦は中止。大将戦までの結果が引き分けの場合、代表戦は小学生（先鋒）が行う。

代表選は引分け無し。引き分けの場合は旗判定により勝敗を決める（延長戦はなし）。

**競技の流れ**

* 選手の呼び出し後、コート両側に立った選手のゼッケンを確認する。
* 主審は立礼後、コート内に入り所定の位置に立つ。
* 主審は選手を開始線に誘導する。（選手Ａ・選手Ｂはコート外で立礼し、コート内の開始線に立つ）
* 選手は互いに立礼（宣言しない）（審判に礼なしで）後、自然体にて構える。

**主審**　「勝負１本始め」　　結び立ちで宣告

「止め」　　　　　 右出しを踏み出し、頭上より胸部前方に右手刀を振り下ろす

「続けて始め」　　　右足を後方に引き、左前屈立ちになり、両手刀を向き合わせて両手を伸ばし、両選手に向けて開く

「赤（白）、○段○突き（打ち・蹴り）技あり」

腕を胸位置から斜め下に腕を伸ばす（手のひらは前方に向ける）

　　　　　　　「一本」 　　　　　 腕を腹部前から頭上へ垂直に伸ばす（ポイント数のカウントはしない）

　　　　　　　「合わせて一本赤（白）の勝ち」

「それまで」は言わない

　　　　　　　「相打ち」　　　　　甲を上に両拳を体の前で突き合わせる

　　　　　　　　「とりません」　　　開手した両手の手首を胸前で交差、手の甲を上にして両腕を斜め下に伸ばす

　　　　　　　「副審集合」　　　　両腕を前方に伸ばした後、両方の手の平を返して（自面）副審を呼ぶ

　　　　　　　「あとしばらく」　　終了３０秒前に両選手に宣告する（試合は止めない）

　　　　　　　　「判定」　　　　　　「止め」⇒コート外に出る「判定」（長短笛）⇒主審も動作する⇒確認後旗を下げる（短笛）⇒コート内に入る⇒「○○の勝ち」（ポイント数カウントしない）

　　　　　　　　「引き分け」　　　　 開手した両手の手首を胸前で交差、手の平を上に返し、両腕を斜め下に伸ばす

　　　　　　　「延長戦」　　　　　監査役に延長戦の許可を得てから「勝負一本始め」にて開始する

主審は勝敗コール終了後、選手を直ちに互いに立礼させてコート外へ下げ、自らもコート外に下がる。主審、選手はコート外に出たらコート内に向かって立礼する

　　　　　　（その他）　　　・場外と３０秒前（あとしばらく）が同時の場合、場外コールして　　　　　　　　　　　　　「続けて始め」を宣言してから、「あとしばらく」を宣告する

・副審旗が2本上がった場合、（5審制）

他の3本「見えません」⇒　取って良い

他の3本「取りません」⇒　取らない

・副審旗が1本上がった場合、該当副審に合図のみで試合を中断しなくてよい

**副審**　「技あり」　　　　　旗は真横に出し、笛「ピッ」と吹く

　　　　　　　「一本」　　　　　　旗を真上にあげる

　　　　　　　「見えません」　　　顔の前で旗の先端を合わせる（交差させない）

　　　　　　　「不十分」　　　　　両方の旗を交差させて、斜め下に２回開く（バッ、バッとゆっくり）

　　　　　　　　「罰則」　　　　　　罰則を犯した方の選手の旗を45度の角度で前に出す（旗は回さない）

笛は「ピッ、ピッ、ピッ・・・」

　　　　　　　　「場外」　　　　　　旗で床を３回叩く、笛は「罰則」と同じ（自分の近くだけジェスチャーすればよい）

　　　　　　　「試合の中断が必要なとき」

笛を「ピッ、ピッ、ピッ・・・」

　　　　　　　「判定」　　　　　主審が「判定」（長短笛）⇒副審旗上げる⇒主審（短笛）で、副審旗下す

　　　　　　　　（その他）・主審が「止め」をかけたとき、副審は「どちらかに技あり」「見えません」「取りません」の、何らかの意思表示をする

　　　　　　　　　　 　・椅子の背もたれに背中を付けない。

　　　　　　　　　 　　・旗動作は切れ良く。

**≪ 形競技 ≫**

**選手服装**　　組手同様に規定以外の服装は失格とする。

**試合形式**　　トーナメント制とし、赤、青（帯を赤・青にする・マイ帯ＯＫ）に分かれて勝敗を決する。

**試合方法**　　・演武する形は自由形とする。

・自由形とは、基本形、指定形、自由形の全てを指す。

・準決勝戦までは、赤、青の選手がコート内で同時に形を演武し、決勝戦は一人ずつ演武する。

・中学生以上は準決勝戦を行わず、勝ち残り4名による決勝戦として一人ずつ演武を行い、採点結果により順位を決定する。

・中学生以上は演武する形について、準々決勝戦と決勝戦は同じ形を演武してはならない。

**・**コートの中に入った時点で判定対象とする。

**勝敗の決定**　・主審、副審による旗により、上がった旗の数が多い方が勝者となる。

　・技の完成度を判定の基本とする。

・中学生以上の決勝戦は、主審（1名）、副審（4名）による採点方式とし、合計得点の高い選手より順位を決定する。

・得点は、最高及び最低得点を除く審判3名の合計得点とする。

・審判3名の合計が同点の場合は、審判5名の最低得点の高い選手を上位とする。

・上記において最低得点が同点の場合、審判5名の最高得点の高い方を上位とする。

・得点で順位が決まらない場合、審判5名の協議にて順位を決定する。

**失格**　　　　・形名の申告間違い、形演武の中断、形の間違い（すり替え）があった場合、演武後に主審が副審を集めて失格とする。

・演武中に帯が外れて落ちてしまった場合は失格とする（目印のために付けた紐等が落ちた場合はこの限りではない）。

**審判員**　　　５審制とする。（主審１名　副審４名　監査１名の６人制）。

**主審**　　　　・主審は選手の形宣言の後、笛「ピッ」で開始。

・演武終了後、「判定、ピーッピッ」で旗判定を行い（黙ったまま旗を数えて勝敗確認）、「ピッ」の笛で旗を下ろす。

・「○の勝ち」（座ったまま）と宣言し、勝者側の旗を上げる。

・失格宣告（不戦勝も同じ）は、赤が失格の場合、審議後、赤に旗を「取りません」の動作をした後「青の勝ち」と宣言をし、青旗を上げる。

**副審** 　　　・旗は赤が外側になるように巻いて膝の上。

・旗を巻き解く際は両手で解く。（振り回して解かない）

**選手**　　　 ・両選手はコート外の各両端部から礼をして同時にコート内に入り開始線に立つ。（同時演武）

・決勝戦は、演武者はコート外中央部から礼をしてコート内に入り開始線に立つ。（個別演武）

・開始線に立ったら礼をして審判の指示を待つ。

・主審の指示により、赤から形名を宣言し構える。

・主審の笛の合図にて演武開始。

・演武が終わったら各自で礼をして回れ右、コートの外に出たらコート内に礼をして判定を待つ

・判定後、その場で主審に礼 ⇒ お互いに礼 ⇒ 回れ右をして下がる

**判定材料について（順不同）**

　錬武会規定より

・技及び着眼等の正確性

・技の強弱、緩急及び全体の調和

・各々の技が持つ意味の的確な表現

・安定感、完成度、確実度

・難易度（難しい技が入っている、足技がある等）

※但し、ふらつきながらの難しい形と、確実で正確な易しい形との対戦の場合、正確さを優先する。

・コート入場後より、形演武ではない部分も見る（歩き方、礼の仕方、態度、形の名前の言い方、姿勢等）

・ふらつき程度（グラグラしてしまっているか、こらえることが出来ているか）

・自信を持って演武をしているか

・全体と細部の両方を見る（全体的な流れ、整い方、緩急のつけ方、力強さ、立ち方、足の力の入れ方、目線手の握り等）

・形により異なるが、開始戦に戻っているか

・メガネは原則的にかけてはならない（全国大会では眼鏡使用不可）。また、ヘアピンなど金物類、装飾品（ネイル等も含む）はすべて禁止、失格となる。

・息吹以外の過剰な効果音的な呼吸音は、減点対象となる

・四股立ちなどで腰の高さが不自然に低すぎる場合は、有効加点しない（低ければ良いというものではない）

**錬武会指定形**

1. クーシャンク―
2. 知花クーシャンク―
3. 城間チントウ
4. 松茂良ローハイ
5. ナイファンチ三段

**改訂履歴**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **版数** | **改定日** | **承認** |
| **00** | **2015年4月1日制定** | **2015年4月1日** |
| **01** | **2019年4月1日** | **2019年4月14日総会** |
| **02** | **2023年4月1日** | **2023年2月19日常任理事会** |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |